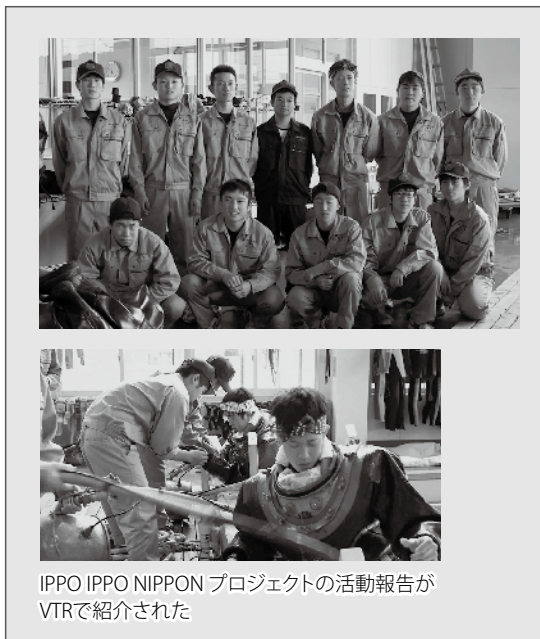


## 追悼式典・懇親パーティ

基調セッションに続いて追悼式典が行われた。震災発生と同時刻の午後2時46分、東日本大震災により犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表し、黙祷がささげられた。

続いてIPPO IPPO NIPPON プロジェクトの活動VTRが上映され、出張授業の様子や支援先の専門高校の生徒たちの感謝の声などが紹介された。なお、このVTRはHP (※)でも公開している。

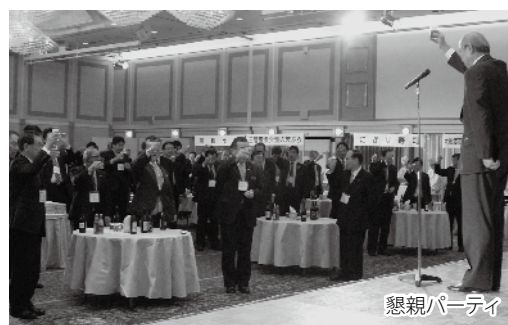


IPPO IPPO NIPPON プロジェクトの活動報告がVTRで紹介された

今回は、地元、岩手県立<sup>こずかた</sup>不来方高等学校音楽部の生徒をゲストに迎え、被災地で歌い続けられている曲を中心に、復興への祈りを込めた歌声が披露された。手話を交えた「花は咲く」や、生徒の主導によって、生徒と出席者同士が手をつなぎ合い、全員で「故郷」を熱唱

するなどの演出もあった。合唱によって、被災地の生徒と出席者全員の復興への思いが一つになった瞬間でもあった。

シンポジウム終了後の懇談パーティは、地元岩手県の料理や日本酒などを堪能しながら、全国からの参加者が交流を深める場となった。



懇親パーティ

※ IPPO IPPO NIPPON プロジェクトの活動報告  
URL : <http://www.doyukai.or.jp/ippo/gratitude/index.html>

### 不来方高等学校音楽部生徒より感謝の声

●先日は、歌う機会をくださり、ありがとうございました。僕は沿岸の宮古市出身で、今は下宿で暮らし、学校に通っています。あの日のことを考えると、とても心が痛くなります。たくさん、知っている方が津波の被害で流され、亡くなりました。あの日がなければ、今ごろはどんなに幸せだったかと考えてしまいます。ですが、あの日の地震と津波があったことで、家族や人の命の大切さや、自分たちの住んでいる地域があるありがたさをあらためて感じる事ができたと思います。四年という時間が経過しましたが、世界中の人たちが、いつまでも3.11を忘れないで、伝えていくことが必要だと思います。

シンポジウムでは、祈りの気持ちを込めて歌うことができました。最初に歌った「星めぐりの歌」と「ふるさとの山に向ひて」は、岩手県の詩人である宮沢賢治と石川啄木の作ったものでした。ぜひ覚えていただけたらうれしいです。これからも、皆さんの幸せを願って、歌い続けていきたいと思えます。皆さんもお忙しいとは思いますが、お仕事頑張ってください。また、ご一緒に歌える日を楽しみにしています。ありがとうございました。

●先日は、東日本大震災追悼シンポジウムでの演奏の場をくださり、ありがとうございました。さまざまな方に、歌で平和への願いや鎮魂の祈りを届けることができている良いなと思います。

四年前、私はまだ小学六年生で、一週間後には卒業式があるという中、震災が起こってしまいました。そのころは、久慈に住んでいて、川が逆流するのを見ました。幸い、海の近くではなかったので、津波の被害には遭いませんでしたが、あの時の緊張感や震災後の電気も物資も少ない中での大変な生活は、今でもはっきりと覚えています。私たちは、千年に一度あるかないかという震災を経験しました。つらいこともたくさんありましたが、経験したからこそ学んだ、命の大切さや人と人が支え合うことの大切さを胸に刻み、震災を経験していない世代にも伝えていきたいです。

今回、あらためて震災後四年という節目の時を通して、命について考える良い機会となりました。沿岸では、まだ復興途中の場所もありますが、一日も早い復興を祈っています。今回は、本当にありがとうございました。